



令和 8 年 1 月 14 日
青ヶ島村立青ヶ島中学校
校長 天花寺 正巳
栄養士 松澤 美帆

あけましておめでとうございます。充実した冬休みは、過ごせましたか？
今年も、皆さんが健やかな心と体で成長していけるよう、給食でサポート
していきます。本年も、どうぞよろしくお願いいたします。



1月の給食目標：食生活と文化について考える

1月24日から30日までは**全国学校給食週間**です。ふだんみなさんが当たり前のように食べている給食は、一体どのようにして始まったのでしょうか。この機会に、学校給食の歴史を知り、その意味や役割について考えてみましょう。

学校給食のはじまり

明治22(1889)年、山形県の私立忠愛小学校で、貧しい子供たちへ食事を提供したのが、日本の学校給食のはじまりです。この学校は大督寺というお寺の中にあり、お坊さんたちが家々を回ってお経を唱え、いただいたお金や食べものを使って食事を用意していました。大正12(1923)年には、子供たちの栄養状態を改善するための方法として、各地へ広がりましたが、戦争による食料不足で一時中断されてしまいました。

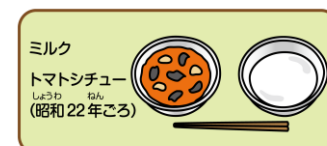
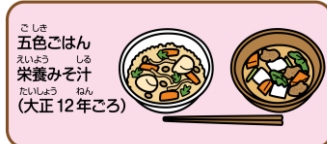
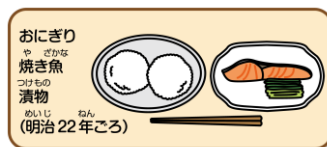
支援物資による学校給食の再開

戦後、子供たちの栄養状態の悪化を心配する声が高まり、昭和21(1946)年12月24日にLARA(アジア救援公認団体)から給食用物資の寄贈を受けて、翌1月に学校給食が再開されました。当初は12月24日を**学校給食感謝の日**としていましたが、その後、冬休みと重ならない1月24日からの1週間を**全国学校給食週間**とすることになりました。

バラエティー豊かな献立内容に

昭和29(1954)年に**学校給食法**が成立したことで、学校給食は教育活動の1つに位置づけられました。主食はパンが中心でしたが、昭和51(1976)年に米飯が正式に導入され、カレーライスや炊き込みご飯などが登場し、献立内容が充実していきました。

このように、学校給食の内容は時代とともに変化していますが、いつの時代も「栄養バランスのとれた食事で子供たちの心身の発達や健康の増進を目指すこと」を目的に考えて作られています。現代の学校給食はさらに、教育活動の一環として、社会性や協同の精神、自然環境の尊重、勤労を重んずる態度、食文化や社会の仕組みについて学ぶ、教材としての役割も担っています。



児童・生徒の食への関心を高める工夫！

～給食取り組み紹介～「旬の食材ビンゴ」

今年度の7月と12月に、**旬の食材ビンゴ**という企画を実施しました。この企画は、児童・生徒が日頃の給食に入っている食材に興味を持ち、その食材の**旬**を意識しながら食事ができるようになることを目指して考えたものです。ぜひご家庭でも、食事の中で旬について話題にしてみてください。

○そもそも旬とは

野菜などは種類や地域によって、収穫できる時期に違いがあります。旬という言葉は、今のように色々な栽培方法がなかった頃、その地域で食材がたくさんとれる時期のことを言いました。

今は、栽培や輸送の技術が進化して、1年中いつでもおいしく、新鮮なまま買うことができるため、旬について意識することが少なくなってきました。

しかし、旬の時期の食材は特においしく、その時期の私たちの体に必要な栄養も多く含まれています。また、旬の時期は食材が安く手に入るなど、旬の食材を意識して食べることは、健康や生活の面で良いことがたくさんあります。

○取り組み方法

- ① 給食で登場する予定の食材の中から、旬だと思う食材を選び、ビンゴカードに記入する。
- ② 給食の時に、その日の給食に使われている旬の食材を確認し、自分が選んでいたらシールを貼る。
- ③ ②を毎日繰り返し、ビンゴを目指す。



全て旬の食材を選ぶことができた方には、給食のリクエスト券がもらえるという特典があり、先生方とともに、児童・生徒も意欲的に取り組んでいました。
冬休みもぜひ、ビンゴを思い出して、旬の食材をたくさん食べてみてください。



12月のキャロットスター

12月のキャロットスターは、全体で2つ隠しました！当たったのは、小学校3年生の児童と、中学校1年生の生徒でした。おめでとうございます♪

Q,2026年になったらやりたいことは？

児童

フォートナイトというゲームを
たくさんしたい！

生徒

久しぶりに兄弟3人そろうので、
3人で野球がしたい！